

2. 石之坪遺跡

所在地 韮崎市円野町上円井1543外
 調査原因 円野地区圃場整備に伴う事前調査
 調査期間 1999年4月23日～10月17日
 調査面積 1,300㎡
 調査主体 韮崎市教育委員会
 担当者 関間俊明



石之坪遺跡は、山梨県韮崎市円野町上円井に所在する遺跡である。平成8年度から遺跡の所在する舌状台地のほぼ全体（約20,000㎡）の調査を行った。現在整理作業中であり、詳細については、来年度刊行予定の報告書に譲り、以下に今年度の調査で確認した遺構・遺物などについて写真で紹介する。

写真1は、縄文時代晩期の土坑である。やや大きめの礫と半完形の土器が出土した。晩期の土器片等は前年度にも出土していたが、遺構を確認したのは今回が初めてである。なお、写真1の土坑は楕円形のやや浅い土坑であるが、円形の深い土坑も確認しており、その作り分けが何に起因するのか興味を持たれるところである。北巨摩の中でもこのような遺構の確認例は少なく、晩期の土坑形態などを知るうえで貴重な例である。また、晩期の遺物の広がりが台地上の一部に限られることが整理作業の中で見えてきた。晩期に居住活動を行った人々が、台地の中でどのような場所を選地していたかを知る手がかりとなろう。



写真1 晩期の土坑



写真2 土坑内遺物出土状況（アッパ）

写真2は、縄文時代中期（井戸尻式）の住居内土坑から出土した土偶である。写真3は、土坑の底面付近から4個の石器と共伴して出土したものである。顔面には、眼下部に細い沈線による涙状の文様、渦巻文や三叉文が施文されている。沈線部には赤色顔料の痕跡が認められる。体部には、顔面部と同様に渦巻文や三叉文等が施文され、沈線溝部に赤色顔料が認められる。頭部は空洞に作られ、腕部は粘土を棒状にして作られている。なお、欠損部を観察したが、土偶を故意に破損させたと断言できるような痕跡は認められなかった。井戸尻式期の土偶出土例は多いが、このようなイレズ



写真3 出土した土偶

ミを模したような文様を施文する例は少ない。また、遺構に埋設された土偶も稀である。食料貯蔵施設と考えられる土坑から出土し、食料加工具と考えられる石器が土偶と共伴しており、土偶の存在意味を考えていくうえで貴重な在り方を示している。



出土した土偶 (S=1/4)



写真4 土偶・石器出土状況

写真5は、縄文時代中期(曾利式)の竪穴住居跡の発掘状況である。7月に行った見学会では、この竪穴住居跡を実際に使って、竪穴住居を復元した。写真6は、屋根や壁に葺くためのアシを刈って束ねているところである。予想以上に量が必要であり、15㎡程度に生えていたアシのほとんどを使う結果となった。それでも住居は隙間が非常に多く、風雨をしのげる状況にはならなかった。縄文時代にどのように、住居一軒分の葺き材を手に入れていたか、また、世間一般で見られる復元住居のような萱葺きが、縄文時代において果たして一般的な住居として存在していたのかを考えさせられた。写真7と8は、実際に住居を組み立てているところである。時間等の関係で、実際の縄文時代の住居とは程遠いものとなったが、見学者は過去を身近に感じる事ができたようである。



写真5 復元に用いた住居跡



写真6 アシの刈り取り

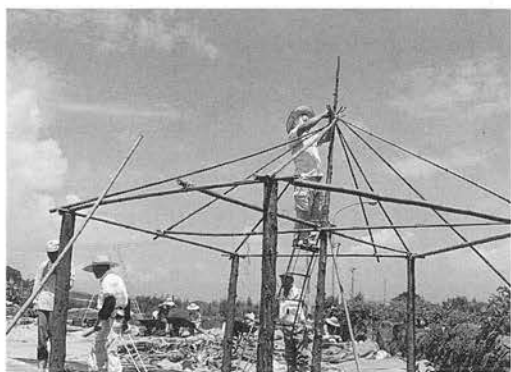


写真7 柱を組む



写真8 屋根・壁を葺く